

## 改憲の先取りが進む！？

沖縄辺野古や「大阪都」、安倍政権の暴走など、書きたいこと、書かねばならないことが山ほどある。最近レポートの題材に悩むことはない。表題は毎日4月15日夕刊「熱血！与良政談」である。レポートでも何回か取り上げてきたが、これも忘れないうちに紹介しておきたい。

自民党は最近、9条改正など国論が二分しそうなテーマは先送りし、反対の少ない項目から改正に取り組むと言っている。でも実際には国民投票を経ずに改憲を先取りして既成事実化する動きが次々と出てきていることを私たちは知った方がいい。

集团的自衛権の行使容認しかり。卒業式や入学式で日の丸掲揚や君が代斉唱をしない国立大学に対して文部科学省が「適切な対応」を要請する—という今度の話もそうだ。自民党（憲法）草案には「日本国民は、国旗及び国歌を尊重しなければならない」と書いてあるのだ。

「文芸春秋」5月号の対談で小林節慶応大名誉教授はこれを憲法に盛り込むことに対し「卒業式で国旗に敬礼しない教員や生徒を『おい、非国民』と取り締まる風潮も出てきかねない。それでは北朝鮮の強権政治と変わらない」と語っている。全く同感。

安部首相らの語る「国立大学は税金で賄われているから」との理屈もすごい。これでは生活保護を受けざるを得ない人たちは今後、思想の自由を奪われるかもしれない。こんなに話をすると即、「大げさに不安をあおりたてている」といった反論が聞こえてきそう。

「大学の自治を侵すな」と言ってみても大学の自治という言葉自体が死語になりつつある時代でもある。だからといって権力の介入を知らぬ間に許していくわけにはいかない。

それにしても「嫌な時代」になってしまったものだ。国立大学への文科省の「適切な対応」、大学への不当な介入は、関心のあるテーマなので別にレポートしたい。

(2015年4月21日)

**熱血!**  
**与良政談**  
与良正男

「いつにつながっているのだろう。本欄の読者には「耳にタコ」で申し訳ないが、憲法とは国民でなく、とかく暴走しがちな国家権力を縛るものだ。その立憲主義の根幹がどう

**改憲の先取りが進む!?**

も安倍晋三首相らには通じない。自民党は最近、9条改正など国論が二分しそうなテーマは先送りし、反対の少ない項目から改正に取り組む

代斉唱をしない国立大学に対して文部科学省が「適切な対応」を要請する—という今度の話もそうだ。自民党草案には「日本国民は、国旗及び国歌を尊重しなければならない」と書いてあるのだ。

投票を経ずに改憲を先取りして既成事実化する動きが次々と出てきていることを私たちは知った方がいい。集团的自衛権の行使容認しかり。卒業式や入学式で日の丸掲揚や君が代

と書いてあるのだ。私は日の丸も君が代も拒んだ経験はない。大切にしているつもりだ。ただし強制する話ではないと思う。

5月号の対談で小林節慶応大名誉教授はこれを憲法に盛り込むことに対し「卒業式で国旗に敬礼しない教員や生徒を、『おい、非国民』と

「文芸春秋」